

大学のグローバル化は、事務職員のグローバル化から
国際学術交流研修



独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) では、
全国の大学や大学共同利用機関の事務職員を対象に、研修を実施しています。
1年目は国内、2年目は海外で実務研修を体験。
国際交流に関する実務能力と広い視野を現場で磨く、2年間のプログラムです。

経費について

研修期間中のJSPSと国際協力員所属機関との経費分担は、以下のとおりです。

JSPSの負担分

①1年目(国内実務研修)

- ・語学研修費用(年20万円まで)
- ※JSPSは宿舍を保有しておりません。

②2年目(海外実務研修)

- ・海外研究連絡センター派遣時の、JSPS東京本部から派遣先センターまでの旅費
- ・滞在中の在勤手当、住居手当、海外旅行保険料、ビザ申請料等
- ・語学研修費用(年40万円まで)
- ・海外実務研修終了時の、派遣先センターからJSPS東京本部までの帰国旅費
- ・JSPS東京本部から国際協力員所属機関までの旅費
- ※家族同伴の場合、JSPSでは家族分の経費支給は致しません。

国際協力員所属機関 の負担分

- ・国内実務研修開始時の、国際協力員所属機関からJSPS東京本部までの旅費
- ・研修中(2年間)の給与

募集について

人数

若干名
※採用実績:2014年度(15名)、2015年度(15名)

スケジュール

- 10月中旬頃** 各大学等人事担当へ公募通知
- 12月中旬頃** **申込締切**
- 翌年**
- 1月中旬頃** 選考
(JSPS東京本部にて、候補者との面接と英語レベルチェックを行います。)
- 2月上旬頃** 採用者を決定、所属機関へ通知

研修に関するお問い合わせはこちら

独立行政法人 日本学術振興会

国際事業部 国際企画課 海外センター係
〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1 麹町ビジネスセンタービル5F
TEL : 03-3263-1792 Email : overseas-o@jps.go.jp

JSPS 国際学術交流研修 [検索](#)

URL : https://www.jps.go.jp/j-kaigai_center/kenshu.html

日本と世界の、学術をつなげ。

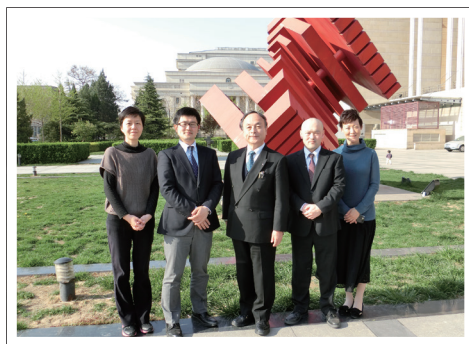


中国を介して、世界の大学間交流を見る。

九州大学／係員
横松 良介

派遣先 : 北京研究連絡センター(2015年度)
現在の業務 : 希平会(日中高等教育交流連絡会)の調整、JSPS中国同窓会の活動支援ほか(執筆当時、同センターにて研修中)

国 内実務研修では、全国から1,000件規模の応募がある二国間交流事業について、募集開始から、申請受付、審査、採用、実施に至る一連の過程を学びました。また、北京研究連絡センターでの海外実務研修では、会計事務といったデスクワークから、中国各地で開催されるJSPS事業経験者による中国同窓会支部会や事業説明会への出張業務まで、センターの活動、運営全般に係る幅広い業務を経験しています。日本では、マイナス面が報道されることの多い中国ですが、世界中の様々な国との研究交流、教育交流を展開しており、学術研究の分野でも世界トップレベルに向けて国を挙げて邁進しています。ここ北京では、担当業務を通して、日本と中国という二国間関係だけでなく、中国を介して世界を見るという新たな視野も得ることができます。国内、海外のそれぞれの研修で得られる成果は、大学帰任後、どのような業務を担当することになっても、国際化が進むこれからの大学業務全般で大きな糧となると確信しています。



中国科学院前で、北京研究連絡センターの職員らと

「国際協力員」として実務研修を体験し、所属機関の国際化への貢献が期待される4人の先輩たち。その生の声をご紹介します。



研修後もJSPSで実務にあたる。国際交流事業の幅を広げる機会に。

静岡大学／国際交流課国際学術交流係 係長
福井 郁夫

派遣先 : ワシントン研究連絡センター(2009年度)
現在の業務 : 学術交流協定、JSPS国際交流事業ほか

研 研修期間中は、日常業務として国際業務に従事するだけでなく、各国大使館や海外機関の開催するシンポジウムやレセプションに参加する機会もあり、最先端の情報に触れることができました。また、ワシントン研究連絡センターでの研修時には、同センターが主催する様々な企画に運営側として関わることで、国際会議やセミナーなどの実務を経験することもできました。海外実務研修では、海外実務研修報告書作成のために、自身の関心のある事柄を掘り下げて調べたり、訪問先大学へのアポイント取得や英語でのインタビューを行うなど、より主体的に取り組まなくてはならない課題もあり、大変な部分もありましたが、充実した研修制度でした。私の場合は、幸運にも、海外実務研修後に、引き続きJSPSの国際事業部で働くこととなり、海外での研修を通して得た知見をJSPS本部の業務に活かす機会をいただきました。以前は、主に留学生交流に関わっていましたが、JSPSでの経験を通して、研究者交流などの学術交流にも関心を持つようになり、国際業務への理解の幅が広がりました。本研修への参加をきっかけに、多くの方が国際業務に関心を持ち、各地の大学で国際化に貢献するような方が増えて行くことを願っています。



現地大学訪問(ジョージア工科大学にて)



飛躍の2年間。日本人のノーベル賞受賞の瞬間も経験。

金沢医科大学／国際交流センター事務課 事務員
大江 佐乙美

派遣先 : ストックホルム研究連絡センター(2014年度)
現在の業務 : 学生や研究者の海外派遣・受入及び国際交流活動支援ほか

東 京本部では、各国の学術機関間の国際会議等に関する業務に携わりました。新しい経験ばかりでしたが、上司の丁寧な指導や同僚のサポートのもと、1年を終えた頃には、業務に対する自信が持てるようになりました。また、業務や同僚との交流を通し、JSPSや他機関の業務環境や手法を学び、人脈を得ることができました。2年目に派遣されたストックホルム研究連絡センターでは、より一人の責任が大きい少数体制の職場で、自ら積極的に提案する大切さを学びました。また、幸運にも2014年にノーベル物理学賞を日本人が受賞し、関連業務に立ち会うことができ、またとない経験ができました。現在は大学の国際交流センターで勤務し、組織全体の様々な国際業務に関わっています。新しい視点で積極的に業務に取り組むことができ、仕事へのさらなるモチベーションの向上を実感しています。社会人として飛躍的に成長できた2年間となり、非常に参加意義の高い研修でした。



Student FairでJSPSの事業等に関して情報発信(ストックホルム大学にて)



研修での経験が、その後のキャリアの大きな柱に。

京都大学／本部構内(理系)共通事務部 総務課総務・国際交流掛 掛長
野尻 知江

派遣先 : ボン研究連絡センター(2008年度)
現在の業務 : 国際研究助成・国際交流事業、外国人研究者招へい・受入ほか

国 内実務研修では、欧州の学術研究振興機関との協定締結等と、欧米との二国間交流事業を主に担当しました。海外機関等とのやりとりでは、フォーマルな英文書簡作成など専門の翻訳者の方等に丁寧に指導していただきました。同じフロアでは当時大学でもトピックスだった「若手研究者国際ナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)」や「世界トップレベル研究拠点プログラム(WIP)」などの事業が現在進行形で具体化・改善されており、事業企画や審査等のプロセスを実地に見ることができました。海外実務研修では、ボン研究連絡センターで、総務・会計、人事、広報、イベント運営など、幅広い仕事をさせていただきました。現地大学等を訪問しての調査や、留学フェア等で自分の大学を英語でプレゼンする機会もあり、所属大学を包括的に、客観的に把握し発信する貴重な経験にもなりました。帰国後、大学で研究推進・国際交流に関わる部署に配属され、日独6大学学長会議というイベントの開催や、英文での研究成果情報発信、大学独自の若手研究者海外派遣事業立上げ、JSPS国際交流事業への応募などに関わる仕事をしてきました。この研修で得た経験は、大学での業務やキャリアの背景として、自分自身の中でひとつの大きな柱になっていると思います。



「産学連携」をテーマにインタビュー調査(ミュンスター応用科学大学の教職員らと)

JSPSだからこそ、実感できる成長がある。

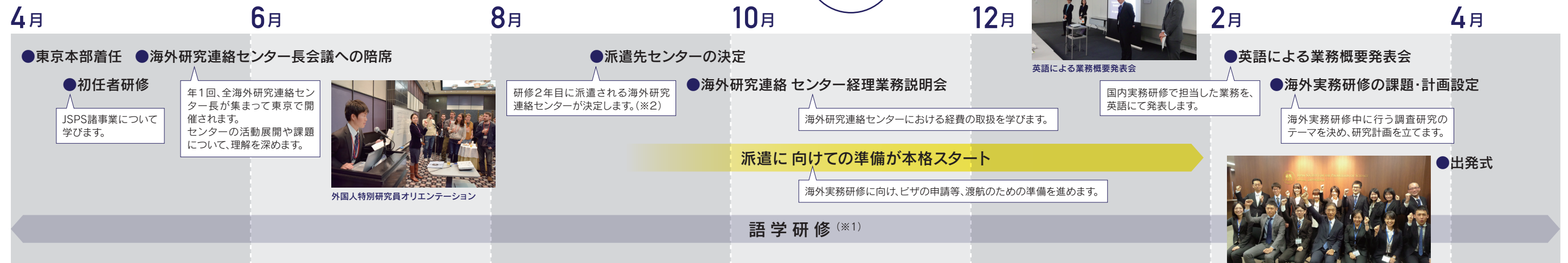
「国際協力員」として、国際交流に関する幅広い見識や高度な実務能力を養い、帰国後は、研修で培ったことを活かして各自の所属機関で活躍。

1年目：国内実務研修

東京本部 国際事業部内に配属され、JSPSの各種国際交流事業を担当します。

1年目の目標

- 学術の国際交流において求められる知識、ノウハウを学びます。
- JSPSの諸事業について、理解を深めます。
- 海外実務研修に必要な、国際業務の実務能力を身に付けます。
- 国際業務を行うための語学力を向上させます。(※1)
- 海外出張、海外赴任に必要な各種手続の方法を学びます。



1年目の業務例

- ・国際シンポジウム、国際会議等の運営
- ・各種国際交流事業の申請受付、審査事務、採用者/採択プロジェクトの管理
- ・JSPSの事業で来日した外国人研究員のサポート(来日直後のオリエンテーション、日常管理、同窓会支援)
- ・海外研究連絡センターにおける経費の執行管理の補助
- ・JSPSの役員級の海外出張の随行及びそれに伴う各種準備
- ・大学の国際展開や世界の学術・高等教育政策に関連する外部シンポジウム等への参加 等

- 現地協力機関、現地研究者等との協働を通じて、真の国際業務感覚を身に付け、人脈を拓けます。
- JSPS諸事業や日本の大学等に関する海外への情報発信力を養います。
- 独自のテーマに基づく調査研究を行い、海外の学術・高等教育の動向についての知識を深めます。
- 海外での商習慣を知り、海外事務所における経費の執行管理について学びます。
- 国際業務を行うための語学力に、更なる磨きをかけます。(※1)
- 海外駐在員としての、日本からの出張者への支援業務を学びます。

2年目：海外実務研修

海外研究連絡センターのいずれかに派遣され、派遣先センターの業務に携わります。

2年目の目標



2年目の業務例

- ・海外研究連絡センターが現地大学等と共催するシンポジウム等の企画、運営補助
- ・現地大学や学術関係機関、現地研究者に対するJSPSの事業説明
- ・海外研究連絡センターのWebサイトの更新やニュースレターの編集
- ・現地の学術関係機関等が開催する各種イベントへの参加
- ・海外研究連絡センターにおける経費の執行管理
- ・自ら設定したテーマについて調査し、海外実務研修報告書を作成 等



海外研究連絡センター

JSPSの海外研究連絡センターのうち、右図の8センターのいずれかのセンターに派遣されます。



※1 国際協力員自ら語学学校を選定し、語学学校で講座を受講する経費を、JSPSが負担します。(1年目(国内実務研修時)は年間20万円まで。2年目(海外実務研修時)は年間40万円まで。)

※2 国際協力員本人の希望等を踏まえて決定します。(受入可能数の関係で、必ずしも希望するセンターにならないことがあります。)

※3 過去の国際協力員の報告書は、「海外学術動向ポータルサイト」(<http://www-overseas-news.jsp.go.jp/>)にてご覧いただけます。

※4 海外実務研修後、国際協力員所属機関とJSPSとが合意した場合は、JSPS東京本部において1年間さらに高度な実務研修を実施することができます。